

研究分野	資源生態	機関・部	水産総合研究所・資源管理部
研究事業名	ウスメバルを育む清らかな里海づくり事業(鰯集幼魚調査)		
予算区分	受託研究(青森県)		
研究実施期間	H20~H21		
担当者	高橋 進吾		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

ウスメバルの生残へ大きな影響を与えると考えられる流れ藻から藻場、藻場から海底への移行期において、魚礁が持つウスメバル幼魚の育成効果を検討するため、鰯集状況や生物的特性等の調査を行う。

〈試験研究方法〉

1. ウスメバル釣獲調査

平成21年6月3日、7月7日に風合瀬沖人工魚礁周辺において、風合瀬漁協所属の漁船を用船し水深別(水深50m層、80m層、100m層、120m層)に釣獲調査(漁法：一本釣)を行った。釣獲後に、尾叉長、体重、生殖腺重量等の測定を行った。分布域の水温は、日本海定線観測の船作線St. 1の水温を引用した。

2. 魚礁鰯集状況調査

平成21年7月2日、水深50m前後に設置された風合瀬沖人工魚礁(平成3~5年度設置)周辺において、試験船青鵬丸に搭載された計量魚探EK-500(シムラッド社製)を用いて、約2km四方の範囲を概ね5ノット前後で南北に航行させ魚類の鰯集状況を観測した。また、魚探反応のあった魚種を確認するための釣獲調査(漁法：一本釣)は7月7日に行った。

〈結果の概要・要約〉

1. ウスメバル釣獲調査(図1)

6月は96尾(うち幼魚は17尾)、7月は79尾(うち幼魚は15尾)のウスメバルを釣獲し、前年よりも多い尾数であった。分布域の水温は11~13°Cで前年同時期に比べて1~2°C程高かった。

水深別にみると、これまでの調査結果と同様に、尾叉長21cm未満(2~3歳魚)の幼魚は主に水深50m層に、尾叉長21cm(4歳魚)以上の成魚は主に水深80m層以深に分布した。

2. 魚礁鰯集状況調査(図2)

7月では、人工魚礁付近の底層で小規模な魚群反応が5ヶ所見られた。釣獲調査ではウスメバルが17尾、エゾメバルが3尾釣獲された。ウスメバルは大部分(15尾)が幼魚であったことから、底層で反応がみられた小規模な魚群の主体はウスメバル幼魚と考えられた。

魚群反応が見られた場所は、前年11月の9ヶ所に比べて少ないものの、魚礁はウスメバル幼魚に対する鰯集、育成効果を有するものと考えられた。

〈主要成果の具体的なデータ〉

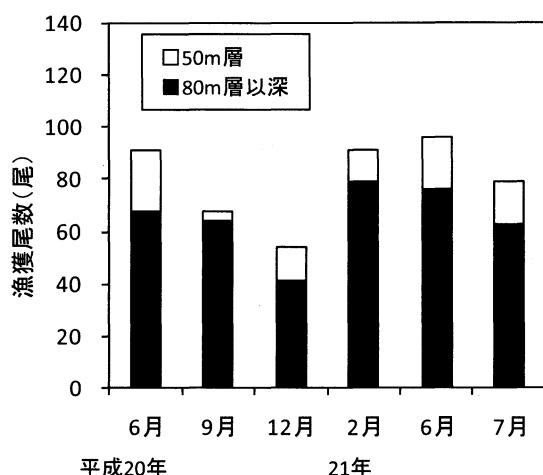


図1 ウスメバルの釣獲調査結果

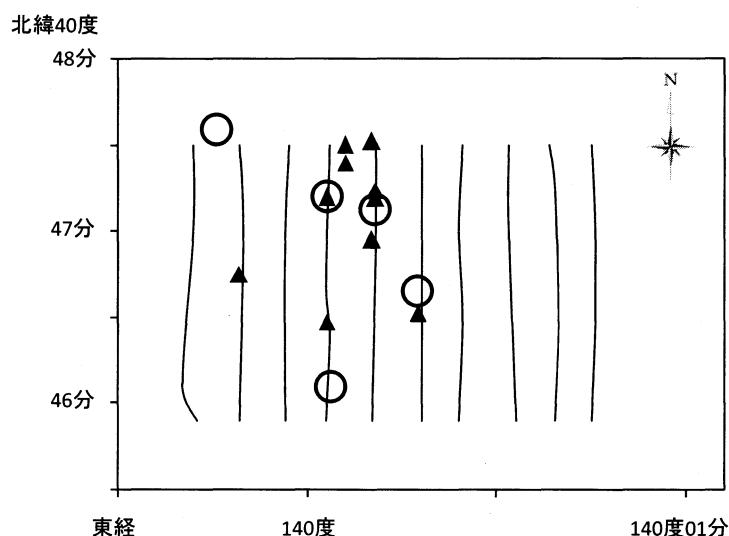


図2 調査線上で魚群反応の見られた場所(調査日:7月2日)

魚群反応位置(○)、魚礁位置(▲)、実線:航跡

〈今後の問題点〉

なし

〈次年度の具体的計画〉

なし(事業終了)

〈結果の発表・活用状況等〉

ウスメバルを育む清らかな里海づくり検討協議会での調査結果発表